

会議結果報告書

1. 会 議 名 令和4年度 第9回 印西市環境推進市民会議
2. 日 時 令和5年3月17日（金）9：30～11：30
3. 場 所 市役所会議棟 204 会議室
4. 出席委員：岩井会長、川井委員、小山委員、白川委員、橋本委員、平林委員、福井委員、
村形委員、吉村委員、渡辺委員

事 務 局：飯島環境保全課長、海老原保全係長、清田主査補

5. 傍 聴 者 0名

6. 配布資料

・会議次第

7. 内容

(1) 開 会

(2) 会長挨拶

(3) 議 題

①環境基本計画の推進について

事務局：今年度最後の市民会議となるため、各グループによる検討内容の発表とさせていただきたい。カーボンニュートラルについては前回発表していただいたため、本日は、グリーンインフラグループ、サステナブルグループに発表をお願いします。発表の前に、グループごとに調整する時間を設ける。

ーグループごとに話し合いー

会 長：それでは、サステナブルグループから発表をお願いします。

委 員：サステナブルグループから環境カレンダーについて発表する。市民会議で試作品を作成し、事務局により編集を行うという提案が事務局からあったため、その方向で進めたい。皆さんからの提案をできるだけ吸収して、試作品を作っていきたい。アクションプランに関する指摘があったが、それについては課題に感じており、10月に完成させるためには、7月には試作品を完成させ、3月から6月までに各グループからの提案を取りまとめて、試作品を作っていきたいと考えている。カレンダーの考え方について、印西の守りたい原風景をメインとし、インテリア性を重視したい。環境活動団体の紹介については裏表紙で盛り込みたいと考えている。また、著作権なども考慮しオリジナリティを重視したいと考える。空いたスペースの使い方については、エコクイズなどに限定せず、自由に内容を掲載する形でもいいのではと考えている。作成部数については、集会所などに1部、回覧用に1部と考えている。

委 員：回覧は、町内会によりかなりの班があるため、各班1部回覧するのではなく、カレンダーを作成したという内容を周知する回覧用のチラシを作成すれば良いの

ではないか。

委員：表紙は仮に写真を選ばせていただいた。

委員：市の木がサクラであるため吉高の山桜が良いのではないか。

委員：いんザイ君も活用してはどうか。

委員：印西市環境キャラクターのエコネでも良いのではないか。

委員：裏表紙については、印西市の環境問題について考えて活動している NPO 団体の紹介の掲載を考えている。

会長：写真については、個人の顔がわかるものは掲載しない方が良いのではないか。

委員：団体のロゴを掲載する形が良いのではないか。

委員：市民活動団体を抜粋して掲載することは、公平性を考慮すると難しいのではないか。

委員：多数の団体があることは承知しているが掲載しきれないため、環境推進市民会議の委員に関係する環境活動団体を紹介する形を考えている。

委員：緑の基本計画に団体の一覧が掲載されているため、それを用いるのはどうか。

会長：環境カレンダーについては、何部くらい作る考えか。

事務局：予算確保ができなかったが、市としては、予算をやりくりして環境カレンダーを作成したいと考えている。ただ、予算の都合上、体裁・大きさ・部数などご希望に添えない可能性がある。

委員：「豊かな自然と都市の融合を目指す街」とあるが、「融合」という言葉ではなく、「共生」という言葉が適切ではないかと思う。

会長：カレンダーは2024年から使うものを作成するということだが、その後の作成についてはどうなるのか。今回の委員の任期は今年の5月までであるため、どうなるのか。

委員：2024年始まりのカレンダーを作成することは決まっているため、次回の委員の任期の中でやっていただくということで良いのではないか。その次の年のカレンダーを作るかどうかについては、来年度に、実績に基づいて検討するというところで良いのではないか。

会長：次年度以降も作ることにした場合、写真については1年ごとに変更するか。同じものを使用するか。

委員：それも含めて来年度に検討してはどうか。

会長：承知した。他になければ、サステナブルグループの発表は以上とし、グリーンインフラグループの発表をお願いする。

委員：グリーンインフラグループの発表を始める。グリーンインフラグループの最終的な目標は、グリーンインフラ条例を作りたいというものであるが、条例については、今年度ということではなく、2～3年、5年、10年先になるかもしれないと考えており、そのスタートの活動として始めた。印西市の休耕田がどのくら

いあるのか、どう分布しているのかを地図上にプロットし、休耕田の状況を見ながら、ホタルの生息に適した場所、ホタルが現在生息していると思われる場所を地図として作った。国土地理院の地図を無料ダウンロードし、グーグルの衛星画像を見ながら、休耕田と水田、水田以外のものを色分けしている。地図を見ると、谷津の奥の方が休耕田となっている箇所が多いことがわかるが、その場所がホタルの保護に適しているのではないかと考えている。ホタルの生育に必要な「みよ」は現地を調査し、地図上に点線で示しており、保全地域などの目安になるのではないかと考えている。

委員：この地図を見てわかる通り、印西市はまだまだ田んぼが残っているものの、赤い色が示すように耕作放棄田が増えてきている。耕作放棄田は谷津の奥の耕作がしにくい場所に多いが、そういう所はもともと生物多様性が豊かな場所となっている。台地にしみこむ水が谷津になるため台地が残っていなければならないが、台地がデータセンターや倉庫などになり雨水が浸透しにくくなると、谷津の耕作放棄田は枯れて柳や葦が生えてしまう。同時に、田んぼじゃなくなるということは、水分を貯められなくなり、川に水が流れてしまうため、洪水の原因になることも考えられる。そこで、(仮称) 印西市のグリーンインフラを活用するまちづくり推進計画、もしくは、生物多様性印西市戦略の策定を提案したい。条例制定はハードルが高いため、まずは行政の組織内で作ることができるものを作り、将来的には条例なども考えていきたいと考えている。印西市の自然環境は本当に劣化しているのを実感しており、劣化してしまっている環境を戻し、劣化していないところは守っていききたいと考えている。策定にあたっては、専門家を交えた協議会を設置する必要がある、国のグリーンインフラ支援制度を活用できるのではないかと考えている。来年度に協議会を設置し、翌年度以降に具体的な検討を進めていく中で、保全のモデル地区を選定すれば、印西市の生物多様性戦略となると考える。

事務局：休耕田の解消については、生物多様性保全、農業問題の解消、貯水・保水、水質浄化など、様々面からメリットがあると考えている。休耕田の解消に関わる取組は、環境学習や地域コミュニティの形成などにもつながり重要なものと認識しており、今後も意見交換を続けていきたいと考えている。

委員：休耕田を新たに田んぼに戻すということは良い発想だと考えるが、田んぼをやっている人は高齢のため、次々と耕作放棄され、追いかけてこくなるのではないかなと思う。

委員：休耕田については、実際に耕作するとまではいかないまでも、耕作できる状態に維持することが重要と考えており、そのために必要な草刈りなど保全作業に対する報償制度なども考えられるのではないかな。

委員：農政課では、地元の人をお願いすることになると聞いたが、実際に地元の人に聞

きに行くと、遠くて難しいなどということになってしまう。

委員：魅力があれば農業法人を作るなども考えられると思うが、それまでのつなぎでも良いので、できることからやっていかなければ、耕作放棄田はどんどん増えていくばかりの状況である。全てを見るということは無理な話であるため、少なくとも地図で赤くなっている耕作放棄されているところから手を付けようという考えであるが、農政課と連携し、農業を守っていくということもとても大切なことである。

委員：環境保全課と農政課がタイアップして取り組んでいく必要がある問題と考える。

委員：耕作放棄は畑ではなく、田んぼを表現するものか。

委員：耕作放棄田、遊休田とあるように、ここでは田んぼのことを言っている。

会長：ゼロカーボンシティの宣言については、どうなっているか。

事務局：担当課としては宣言したいと考えており、宣言に伴う具体的な取組について、内容をつめているところである。来年度には、地球温暖化防止のシンポジウムを考えており、市民の皆様を集め、地球温暖化の問題について考える機運を高める機会を作りたいと考えている。

会長：他の宣言している7割の自治体の多くは、まず宣言をして、そこからやることを考えるという形を取っているため、市は前向きに宣言を検討してほしい。

委員：昨年度環境基本計画を策定し、今後は各課によるアクション計画を立てる段階にあると思うがそれについても説明機会を設けていただきたい。

事務局：環境基本計画に基づく具体的なアクション計画はなく、現状は各部署が環境基本計画に沿って事業を実施しているところである。

(4) その他

- ・市民アカデミーによる論文作成の報告
- ・次の任期の委員募集について
- ・報償について

(5) 閉会

以上

令和5年度第9回印西市環境推進市民会議の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和5年5月18日

印西市環境推進市民会議 委員 小山 尚子

印西市環境推進市民会議 委員 白川 卓生